

やまなし

2008.7.1
vol.6

no. **1**

contents

2 | 最近の図書館事情に思うこと

4 | 利用者の声

5 | 学生にすすめる本

6 | 図書館統計

7 | 図書館トピックス

新データベース利用開始 他

講演会

「尾崎紅葉門下の四天王」を開催

泉鏡花・徳田秋声・小栗風葉・柳川春葉

eBookトライアルのご案内

8 | 今後のイベント紹介

The Yamanashi
Bulletin of the University of Yamanashi Library

最近の図書館事情に思うこと

カワムラ タカアキ

教育人間科学部長 川村 隆明

図書館は知的活動を支える上で重要な役割を果たして来た。30年程前までは本や雑誌などを収集・収納する場所であり、それらを閲覧する場所であった。図書などの出版物が増えるに従って、収納場所などのスペースの問題が生じ、マイクロフィルムなど、図書をコンパクトにする方法が開発され、同時にマイクロフィルムを管理するシステムが必要となった。その後、電子媒体による図書や雑誌が出されるようになり、それらを閲覧するシステムも形を変えながら、増加する図書・雑誌に対処してきた。最近では電子媒体による図書・雑誌も重要な情報媒体のひとつと考えられている。

このように変容した“図書・雑誌”を収納する図書館の在り方も形を変えざるを得なくなっているようである。現在、図書館は最も適切な情報を、最も効率的に検索し利用できるような環境づくりとその条件整備-知識の組織化-のための役割を担っている、といわれている。しかしながら現実的には多くの問題を抱えてもいる。

私が見聞した限りでも、典型的な問題を示している例があるので、紹介したい。たとえば英国のオックスフォード大学の、あるカレッジの図書館では、17世紀から19世紀の収納図書がスチーム配管からの漏れのためひどく傷んでいるのを見た。このカレッジが作られたのは14世紀で、その後スチーム配管、空調配管が作られている。これらの配管は収納棚の一部を削って作られており、管の下にも本が収納されている。これらの配管からの水漏れ・液漏れが起きたのである。漏れはすぐに止められても、水がかかった図書は時間とともに腐食

が進んでしまう。すぐに図書を傷まないような別のところに移せば良いのと思うのだが、そもそもそんな場所はあるはずもなく、かといって暖房をなくすかということになると、問題の解決はそう簡単ではない。収納されている図書は所狭しとおかれており、その図書館の中で移すところはないとのこと。本は傷んだまま数十年も経っていた。本を散逸させず、傷まないようにすることは容易ではないとのことだった。

一方、全面改装したという別の図書館は全く様子を異にしていた。まず景観保全のため建物の外観はそのまま保存され、新しい図書館のスペースは地下に作られていた。建物の前にある車止め、駐車スペースの下も、広大な地下図書室の一部になっていた。この地下のスペースで最初に目についたのは、数十台のコンピュータ端末がおかれ、電子媒体を閲覧する部分である。その奥に図書を閲覧するスペースがあり、コンピュータ端末にも、図書の閲覧するスペースにも多くの学生がいた。英国は景観の保全について厳しいことは良く知られている。景観と機能とを両立するために、地下を利用した図書館は少なくないという。「日本のように地震はないから」と冗談まじりに新しい図書館を自慢していたが、現代の空調技術の発達も地下の収納スペースを実現させるための一助になっている。昼夜の区別も図書館には必要ないかもしれない。



いま図書館が抱えている2つの問題をこれらの例は示しているのではないか。一つは従来の冊子体の図書・雑誌の保存と閲覧の問題と、電子ジャーナルや電子図書など電子媒体による図書・雑誌の保存と閲覧の問題である。

「古い図書は重要であるが全てが重要というわけでもない。しかし、重要かどうかをどう分けるかは、それほど容易に決められるわけでもない。」などという議論を始めると結論は、「とりあえず、あるもの全てを保存しておこう。」「今のままでしばらく考えよう。」ということになってしまう。これが何年も続くので、図書館はいっぱいになり、閲覧スペースが削られていくことになる。多少図書館を改築しても、その分時期が遅くなるだけで、図書館の収納スペースの問題は起こる。冊子体をどのように保存するか、電子媒体に変換するののかも含めて、適切な情報を最も効率的に検索し利用できるような環境を作ることは容易ではなく、試行錯誤が必要である。

もう一つの電子媒体による図書・雑誌の保存と閲覧にも問題がないわけではない。電子ジャーナルはコンテンツを見ること、ダウンロードして自分のコンピュータの中に移すことも出来るが、その保存とは、結局印刷して紙媒体として保存するか、コンピュータ内あるいは別のデバイスに保存するか、であろう。どちらも個人の管理能力に依存する。では図書館としてはどうか。閲覧できる電子ジャーナルの中身を全て保存することはまずないであろう。これをやっていたら、図書館のコンピュータの容量はすぐに不足するであろうし、全ての図書館で保存するなら折角電子化した意味がなくなってしまう。どのような形で人類全体

の知識の組織化を行うかということと、これを行う組織（電子ジャーナルを出版する学会・企業など）の運営



(利益) との間で、多角的な視野からの検討が必要に思われる。

ことは電子ジャーナルに限らない。情報社会といわれる現在の情報の中から、何を選び、どのように利用するかという知識の組織化は図書館に課せられた重要な問題である。この解決法はそれぞれの図書館の目的や使命によって異なり、また図書館の利用者によっても異なってくる。大学附属図書館にとっても利用者とともに試行錯誤を繰り返していく中で解決していく必要があるだろう。保守的な形の利用者、新しい形の利用者、それぞれから求められるものが多様な大学の図書館のむずかしさがある。多くの利用者のある図書館が、結局良い図書館である。多くの利用者とともに議論が進むことを期待している。

図書館の改善希望

医学工学総合教育部 持続社会形成専攻

スミ キョウヘイ
角 恭平

図書館には、職員の方にも、そこにある本や雑誌や新聞にも、本当にお世話になっている。いまやGoogleで情報をコンマ数秒で得られる時代……なのだが、だからこそ逆に、図書館のありがたみをヒシヒシと感じたりもする。そうやってお世話になっている図書館に対して、不躰ながら、ヘビーユーザー(自称)ゆえの、改善のお願いがある。

一点目は、貸出冊数を増やしてほしいということだ。現在は、全員が5冊までとなっている。しかし、これは近隣の図書館と比較すると、とても少ない。例えば、山梨県立図書館の場合、10冊まで借りることができる(ただし貸出期間が二週間で短いのだが)。また、山梨学院大学の場合、学年ごとに貸出冊数が異なり、学部4年生だと10冊(ただし3週間)、院生ならば破格の大サービス、20冊(そして1ヶ月)なのだ。もっとも、学院大は文系学部が多いことも理由かもしれないが、正直、私は羨ましい。

二点目は、一月に可能なリクエスト冊数を増やしてほしいことだ。現在は、一月に3冊までと決まっている。しかし、これを制限なしとは言わないまでも、もう少し増やせないかと思う。リクエストで本を買ってもらうことには、本当に助かっている。図々しいことに、もっと買ってもらいたいというのはわがままかもしれないが、ぜひ検討してほしい。

あと、細かいことを言えば、雑誌の製本をしてほしいとか、「所蔵が研究室」という存在が面倒だとかいろいろある。しかし、これらが改善されたなら、さらに通いつめることになるかもしれない。ヘビーユーザー(自称)の要望、ぜひ、ご一考を願いたい。

趣味の場・学びの場・癒しの場

医学部 医学科3年

ハシモト アイ
橋本 愛

医学分館には、特に3つの点で御世話になっている。

一つ目は、趣味の読書という点。医学分館には、『生と死のコーナー』を中心に、心に触れるような最新のドキュメンタリー物なども意外に沢山ある。疾患を楽しく学べる漫画もあるし、数は少ないが小説もある。最新の文芸雑誌もあって、芥川賞作品はこの雑誌で読むことができる。美術書を見て癒されることも可能だ。

二つ目は、医学部ならではの有り難味、専門書を沢山調べられるという点。勉強をしていると、さまざまな資料を調べて読んでみたくなる。けれども、医学書は高い。収入がほとんどない学生という身分にとって、そのジレンマを解決してくれるのが、図書館だ。その意味でも、この医学分館は理想的。授業で扱う分野の参考書が、沢山ある。「これを調べたいな」という思いは、数冊の本を読めば十分に満たされ、さらに、おまけの知識も得られる。少し文献が古いときがあっても、それは玉に瑕だけだ。

最後に、癒しの空間としての存在。小さな頃から、同世代の子どもたちと戯れて遊ぶのが苦手だった私にとって、図書館はよい隠れ家であり続けてくれた。一人暮らしを始めるようになってからは、一人でいるとなんとなく寂しい時の避難所でもあってくれた(今は、結婚もしてお腹に子どももいるから寂しくないけれど)。医学分館は二十四時間利用することができるから、その点でも理想的だった。

『容疑者Xの献身』

東野圭吾著 文藝春秋社

ナカムラ タカシ
教育人間科学部 数学教育講座 中村 享史

「数学は何のために勉強するのか」

この問いに答えるのは簡単ではありません。数学の実用的目的、文化教養的目的、陶冶的目的を論じて、数学を学ぶことの意味を丁寧に考察しなければなりません。この問いは、数学を学ぶことの本質を考える根源的な問いであると私は考えます。

「容疑者Xの献身」に出てくる高校の数学教師の石神哲哉は、数学の授業で生徒が発したこの問いに対して、オートレースを例にして、なぜ数学を勉強するかについて話します。そして、「俺が君たちに教えているのは、数学という世界のほんの入り口にすぎない。それがどこにあるかわからないじゃ、中に入ることもできないからな。……俺が試験をするのは、入り口の場所ぐらいわかったかどうかを確認したいからだ」と試験の意味も話します。推理小説の中にもなぜ数学を学ぶのかについて論じているものがあるのです。

この小説は、探偵ガリレオシリーズの一つです。物理学者の湯川学と数学教師の石神哲哉が、ある殺人事件の隠蔽と解明を巡っての攻防が話の中心です。その展開や推理・論理を読んでいくと、時間を忘れてのめり込んでしまいます。また、数学のP=NP問題や四色問題についても展開の中に散りばめられています。私の好きな理系推理小説の一つです。



所蔵案内：『容疑者Xの献身』
本館2階 一般書架
分類：913.6

『聖(さとし)の青春』

大崎善生著 講談社

マツカワ タカシ
医学部 麻酔科学講座 松川 隆

ネフローゼという重い病気を患った村山 聖(さとし)が、小児期から将棋にのめり込み、プロ棋士となり、A級8段というトップ棋士になりながら、更なる重病を得て29歳で亡くなるまでの人生を描いたノンフィクションである。

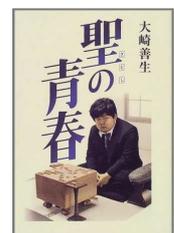
平成10年、将来の名人候補と目されていた一人の棋士が若くして他界した。村山 聖、享年29歳。将棋界の最高峰であるA級に在籍したままの壮絶な死であった。

幼くしてネフローゼという難病を患った村山の人生は、病気との闘いの連続だった。療養学校のベッドの上で将棋を覚えた少年は、取り憑かれた様に将棋にのめり込み、やがてプロ棋士になるという夢を抱く。周囲の反対を振り切って、桁外れの努力と強固な意思によってその夢を彼は実現した。しかし、疲労が蓄積すると立ち上がることさえ出来ない村山は、何度となく不戦敗を余儀なくされた。アパートの階段を下りた路上で倒れていた彼に近所に住む電気工事屋のご主人が声をかけ、村山の鬼気迫る雰囲気を感じ取り、何も言わず将棋会館まで車に乗せて行ってくれた。その人は以後、毎朝9時になると村山の姿を路上に探したという。実際それで救われたことが、村山には何度もあった。

この本には、こうした心に沁みるエピソードがたくさんある。家族の絆、同世代(現在でも最強の羽生世代)の棋士達との交情、そして何よりも心震わす師弟愛。私自身読んでいて涙が止まらなかった。合計4度通読し、そのたび毎に心を洗われる気持ちになる。

筆者の大崎善生のデビュー作であり、以後、大崎はノンフィクション、フィクションの佳作を多く輩出している。

将棋に興味があるなしに関わらず、青春を謳歌している山梨大学の学生さんの一人でも多くの方に是非読んでいただきたい傑作である。生涯の心の糧になる一冊だと、強く推薦する。



所蔵案内：『聖の青春』
医学分館2階 生と死のコーナー
分類：796.021/SAT

1 図書館利用統計(H19年度)

(1)開館日数・入館者数

区分	開館日数	入館者数(人)		
		学内者	学外者	合計
本館	272日	116,472	2,506	118,978
分館	287日	138,365	495	138,860

(2)館外貸出冊数・参考調査取扱件数

区分	館外貸出冊数(冊)				参考調査 件数
	学生	教職員	学外者	合計	
本館	21,645	1,697	582	23,924	3,532
分館	12,536	2,246	343	15,125	3,775

(3)相互利用

区分	貸借(単位:冊)		文献複写(単位:件)	
	貸出	借受	受付	依頼
本館	341	447	2,742	2,618
分館	106	66	4,154	3,884
合計	447	513	6,896	6,502

(4)子ども図書室

開館日数	116日
入室者数	1,935人
貸出券発行人数	112人
蔵書冊数	3,299冊
貸出冊数	1,995冊

2 図書館蔵書統計

(1)図書・雑誌蔵書数(H20.3.31現在)

区分	図書(単位:冊)			雑誌(単位:種)		
	和図書	洋図書	合計	和雑誌	洋雑誌	合計
本館	359,522	132,468	491,990	6,969	2,279	9,248
分館	57,388	50,055	107,443	2,194	1,352	3,546
合計	416,910	182,523	599,433	9,163	3,631	12,794

(2)図書・雑誌受入数(H19年度)

区分	図書(単位:冊)			雑誌(単位:種)		
	和図書	洋図書	合計	和雑誌	洋雑誌	合計
本館	7,425	1,079	8,504	2,607	270	2,877
分館	2,481	873	3,354	576	181	757
合計	9,906	1,952	11,858	3,183	451	3,634

3 電子ジャーナル統計

電子ジャーナル(2007/1~2007/12) fulltext ダウンロード件数

Science Direct	66,518	Karger	1,546
Nature Group	13,311	Science	3,557
Wiley InterScience	11,048	Oxford University Press	4,528
Blackwell Synergy (16タイトル)	1,989		



新データベース利用開始 ほか

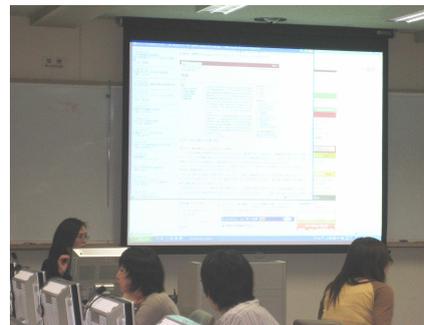
平成20年4月から、下記のデータベースが追加・変更になりました。

◆JapanKnowledge (ジャパンナレッジ) サービス開始

日本大百科全書、現代用語の基礎知識、日本人名大辞典等の辞書・事典を中心に、ニュース・学術サイトURL集などを集めた知識探索サイト。週刊エコノミストなど記事・コラムや東洋文庫、Rand McNally世界地図も利用可能。

◆朝日新聞記事データベース「聞蔵Ⅱ」へバージョンアップ

戦後（1945年～現在）の記事がすべて検索可能。



附属図書館では、このデータベースの追加・変更を機に、利用者のデータベースのさらなる有効活用を目的として、提供元である朝日新聞社、ネットアドバンスから講師を迎え、“レポート作成・研究に役立つ「聞蔵&JapanKnowledge利用ガイダンス」”を5月16日（金）に開催しました。今回はデータベースの概要を中心に説明していただきましたが、秋にはレポート作成のための、より実践的な内容で説明会を開催する予定です。どうぞご参加ください。

山梨大学附属図書館近代文学文庫関連イベント



講演会 「尾崎紅葉門下の四天王

泉鏡花・徳田秋声・小栗風葉・柳川春葉」を開催



附属図書館では、平成20年6月28日（土）、吉田昌志氏（昭和女子大学人間文化学部教授）・中丸宣明氏（本学教育人間科学部教授）を講師に迎え、「尾崎紅葉門下の四天王、泉鏡花・徳田秋声・小栗風葉・柳川春葉」を開催しました。当日は一般の方や研究者など学外からの参加もあり、約30名の受講者が華やかな装丁の鏡花本についてや尾崎紅葉の弟子たちの逸話を

3時間に渡って熱心に聴講しました。



なお、6月23日より図書館2Fにて関連常設展を開催しています。詳しくは図書館ホームページ <http://www.lib.yamanashi.ac.jp/> をご覧ください。

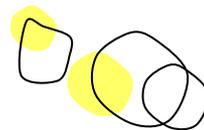


OCLC NetLibrary eBook(電子ブック)トライアルのご案内

自然科学から人文科学までの幅広い学術図書が電子媒体(PDF)にて利用できる「OCLC NetLibrary(eBook:電子書籍)」のトライアル(施行利用)を実施しています。トライアルでは、和書約290タイトル・洋書約3400タイトルが利用可能です。この機会にぜひお試しください。

トライアル期間：～平成20年8月8日(金)まで

今後のイベント紹介



連続講座

平成20年度山梨県・山梨大学連携事業

「子どもと本をつなぐ・連続講座」（全5回）のご案内

子ども図書室では、山梨県と山梨大学の連携事業の一つとして、山梨県教育委員会と山梨大学の共同企画により、「子どもと本をつなぐ・連続講座」（全5回）を子どもと本、読書に関する様々なテーマで開催します。参加申込みは毎回ごとに行います。

第2回 講座「知識を豊かにするための読書」

日時：8月5日（火）午後2時～（終了予定4時）中央市立玉穂生涯学習館

講師：東京学芸大学教育学部教授 岸 学氏

第3回 講座「アニメーションの理論と実際（仮）」

日時：9月18日（木）午後2時～（終了予定4時）

講師：青柳啓子氏

第4回 講座「子どもの本のもつ力」

日時：11月18日（火）午後2時～（終了予定4時）

講師：清水眞砂子氏（児童文学者・翻訳家）

第5回 未定

主催：山梨県教育委員会

山梨大学附属図書館子ども図書室

*事前にお申込みが必要です。

● お申込み・お問合わせ先 ●

山梨県教育委員会社会教育課
社会教育振興担当

〒400-8504 甲府市丸の内一丁目6-1

TEL 055-223-1771 FAX 055-223-1775

Email:shakaikyo@pref.yamanashi.lg.jp



講演会

山梨大学附属図書館医学分館主催「生と死のコーナー」関連行事 講演会

医学分館では、平成20年度の「生と死のコーナー」関連行事として、めぐみ在宅クリニック（横浜市）のホスピス医、小澤竹俊先生を講師にお招きし、下記日程で講演会を開催します。在宅緩和ケアの第一人者として有名な先生のお話を聴くことができる貴重な機会ですので、ぜひ皆様のご参加をお待ちします。

講師：めぐみ在宅クリニック 院長 小澤竹俊先生

日時：平成20年10月24日（金）18時30分～20時（予定）

◆イベント詳細については、ポスター・パンフレット・山梨大学附属図書館ホームページ等でお知らせいたします。皆様のご参加をお待ちしています。

学外の方への利用案内

本館及び医学分館は、山梨大学以外の大学生をはじめ一般の方々も利用できます。詳細については、<http://www.lib.yamanashi.ac.jp/> をご覧いただくか、本館 Tel:055-220-8066（情報サービスグループ）、医学分館 Tel:055-273-9357（医学情報グループ）にお問い合わせください。



山梨大学附属図書館報
「やまなし」
第6巻第1号

2008年7月1日 発行

編集：館報編集委員会

発行：山梨大学附属図書館

〒400-8510

甲府市武田四丁目4-37

●表紙撮影：図書課総務グループ職員 嶋 幸司
場 所：甲府キャンパス 工学部